

せとまちトーク進捗管理シート

水南 連区

テーマ

瀬戸の地場産業を軸とした観光とまちづくり

課題・問題点の背景・理由

- ・釉薬、石膏型関係の人材育成(後継者不足)
- ・新技術、技能を学ぶ施設を作る
- ・市内外へもアピールできる催事イベント
- ・街の活性化につながる活動

解決手法

【行政】

- ・定光寺から岩屋堂をつなぐ猿投ハイキング道路をPRし駐車場を作る観光地に
- ・学校給食での陶磁器食器の使用
- ・グランドキャニオンを有効な観光施設にする
- ・瀬戸一円を一つのテーマパークとしたまちづくり
- ・道路の整備重点に取り組む

【地域】

- ・地域活動にせとものを取り入れる
- ・イベントの商品にせともの

【その他】

- ・新瀬戸駅周辺の整備(回廊を作る)
- ・陶生病院前の交差点2車線に希望

関係する常任委員会

都市活力委員会

せとまちトーク後の経過、及び調査検討結果

【課題・問題点の背景・理由についての現状調査】

Q: 釉薬・石膏型関係の人材育成(後継者不足)・新技術、技能を学ぶ施設を作る等について

A: 名古屋高等技術専門学校窯業校、愛知県立瀬戸工科高等専攻科、新世紀工芸館、瀬戸染付工芸館において研修事業を行っている。育成機関の研修修了生等が希望する職種と、事業所が求める人材とのミスマッチ等から地元企業に就業する数は少ない状況にある。

Q: 市内外へのアピールできる催事のイベントについて

A: 様々なアピールを行っている。(市内:せともの祭り、陶祖まつり)

(市外:東京ドームテーブルウェアフェスティバル等への出展。伊藤園やネスレジャパン、名古屋マリオットアソシアホテルとのコラボレーション事業)

Q: 街の活性化につながる活動について

A: 陶芸を含む若手作家(ツクリテ)が市内に定住し創作活動を続けることが、街の活性化につながると考え、地域の賑わい創出を目的としてツクリテ開業補助金等でツクリテたちの活動を支援している。瀬戸焼関連業者が主体的に取組むイベントが企画され効果を上げつつある。

【解決手法についての現状調査】

Q: 瀬戸一円をひとつのテーマパークとしたまちづくり(行政)

A: 平成13年から、国際交流、都市基盤整備等を行った都市戦略の要として、総合的なまちづくり施策「せと・まるっとミュージアム」を推進してきた。観光面では、街の歴史的・文化的資源に光をあて、まち全体を美術館、博物館と見立てることで、観光を目的とした来訪者の回遊を促し交流と賑わいの創出を行っている。

Q: 地域活動にせとものを取り入れる(地域)

A: 市内の地区公民館等では自主的に生涯学習の計画を立て事業に取り組んでいるが、生涯学習事業のひとつとして陶芸教室や、焼きものの歴史講座を開催している公民館がある。

【議会での質疑】

令和4年3月議会「瀬戸焼で暮らしを楽しもう条例」議案審査

Q: せとまちトークで出された課題の解決に条例が今後どう活かされていくのか。

A: 郷土の産業であり財産である「瀬戸焼」について、誇りと愛着を持ち瀬戸焼の魅力を内外に広く伝え、全ての方々が一丸となって、瀬戸焼の普及及び発展に取り組んでいく。今後、本市に関わる方々のご協力を頂きながら進めていく。

【補足】

「瀬戸焼で暮らしを楽しもう条例」の理念条例の制定、改訂された瀬戸焼振興ビジョンにより、せとまちトークで出された後継者不足や街の活性化につながる活動等について、課題の解決につながっていくことを期待したい。また、地場産業に対する世代間の格差や全世代の理解を得られる市税の投入等については、今後の予算決算の審査の中でも議論していく必要がある。

さらに、条例制定を契機として、瀬戸焼の普及及び発展とともに市民の暮らしがより良いものとなるよう、地場産業を軸とした観光とまちづくりが進むよう期待し、今後の施策の効果等を注視していく。